

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー 1ユニット		
所在地	群馬県沼田市新町 452-1		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年10月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

気付きやさ、悔いなき行動、笑いあえる信頼関係、みんなで築こうサンフラワー の運営理念を掲げ、ホーム長 管理者を始め全職員が理念の実践に取り組んでいる。定期的な勉強会を行い、認知症の方のその人らしさを尊重し、日々の介護サービスの質の向上と職員教育には特に力を入れている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「気づきやさ、悔いなき行動、笑いあえる信頼関係、みんなで築こうサンフラワー」の理念を掲げ、将来像を具体的に描き、各ユニットで現状と課題を抽出のうえ、解決するための具体的解決策を図式化し、ユニット会議やケアプラン会議で話し合い、運営推進会議に報告するなど、理念の実現に向けた取り組みをしている。職員は理念のなかに謳われている気づきよさを基に、利用者とのコミュニケーションを図ることやしぐさやサインを見逃さないことを具体策として取り組み、職員全体で利用者の思いを気づき支援していくよう取り組んでいる。また、入居者が居間で休んでいるときに話を聞く「15分間会話」を5ユニットで実行するなど、入居者の思いや意向の把握に努め、散歩や買物に出掛けたり、出身地の祭り見物や入居者の実家へ枝豆取りに他の入居者も同行し出掛けたりするなど、入居者の思いや意向に沿った支援ができるよう取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会を実施し、理念から各ユニットにおいて目標を作り実践している	「気づく優しさ、悔いなき行動、笑いあえる信頼関係、皆で築くサンフラワー」を理念に掲げ、具体的な将来像を描き、現状と課題を抽出のうえ解決策を図式化し、ユニット会議やケアプラン会議で話し合い、理念の実践に向けた取り組みをしているが、地域密着型サービスの意識づけが薄いと思われる。	地域密着型サービスの意義を全員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所運営を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事(バーベキュー等)において地域住民を招待し、交流を深めている	自治会に加入し、職員が道路清掃に参加すると共に、どんど焼きや沼田祭り、高校の文化祭や中学校の運動会を見物したり、ホームのバーベキュー行事にチラシを配布して地域の人を招待したり、中学校の体験学習の受入れをしたりするなど、地域との交流に努めている。今後は、地域の方に、よりホームの理解を深めていただく具体策として、回覧板にホームの新聞を回覧することを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方への情報を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回テーマを決めて運営推進会議を通じて地域の方や家族の方へ情報提供したり支援の方法や実践の報告をしている	会議は、日程や開催時間を検討し行っているが、今年度は外部構成員は市職員のみでの出席であり、区長・民生委員・家族は出席していない状況である。会議では、5ユニット毎の年間目標並びに理念に対する目標とビジョン・現状・課題・具体的解決策を説明し、意見交換を行っている。	外部構成員である地元代表・家族代表が出席できるよう検討すると共に、自己評価及び外部評価に基づく目標達成計画を議題としてあげ、そこでの意見等をサービスの向上に活かされるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保の利用者の相談や沼田祭りの時の市役所への車両乗り入れ許可を得たり等、協力関係を築いている	管理者は、ホームの浴室改装について市担当者に相談し、助成制度の情報や助言を頂いたり、地域への周知方法として新聞を発行し回覧版を活用する提案を受けるなど、市との連絡を密に取り、関係協力を築きながら、ホームの運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、非常口の施錠については、事故のない様、安全に配慮している。各ユニットにマニュアルを置いている	リスクマネジメントしながら、身体拘束をしないケアに努めている。利用者の好きなことやできることをしてもらいながら、職員が見守りをするなどしている。また、管理者は、言葉で行動を抑制することも身体拘束と捉えて指導している。研修会には職員が参加し、朝礼での報告や復命書を作成している。2階から1階に下りる階段には車椅子の転落や徘徊者の無断外出を防止するため、電子ロックで開閉する扉を設置している。	入居者の安全を確保しつつ、日中は2階の扉に施錠しないことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内にある虐待防止マニュアルを把握し、かつ、不適切なケア等について会議で学び合い、虐待が見過ごさない様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様、外出時等、見守りして員物が出る様支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約後も疑問不明な点がある場合は随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分な説明と同意を得て、その実施に心かけている	入居時のアセスメントで、本人や家族の意見や要望を聞いている。面会時の報告や毎月発行の「おたより」やケース記録を郵送し、入居者の行事参加状況や様子などを知らせ、家族と情報を共有し、関係を築きながら意見を聴取するように心がけている。玄関には、意見箱と用紙を設けている。外部へ表せる第三者機関の窓口については、入居時に説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人的又は、ユニット的に意見を聞き利用者本意にて取り入れられる物は取り入れている	日常の業務中や各ユニット会議で職員は意見を言える機会があり、ユニット会議で話し合われた内容は、ユニットリーダーが集まるユニットリーダー会議でさらに検討が行われている。外部研修参加の要望や運営に関する意見を聞き、トイレにL字の手すりを設置することや浴室の改修の意見が取り入れられ予算化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修センターを中心に地域の物をおりませながら個人、ユニット、ホームのレベルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修の交流を通じてケアの質の向上を計っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の面会や電話連絡の時などに常に要望に耳を傾け信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日常の面会や電話連絡の時などに常に要望に耳を傾け信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援は何なのか見極め、利用者様、ご家族様の望む対応が出来るよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯たたみ、調理等手伝いなどをしていただき役割を見出している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診付添い、外出、外泊などを家族にお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会などで関係を保ち希望があれば電話連絡仲介や会いに行けるよう支援している	アセスメントや日常の会話で、馴染みの人や場を把握している。友人が果物を持参して訪ねてきたり、知人と手紙のやり取りをしたり、家族の協力を得て墓参りや親戚の法事に出席したりしている。また、出身地の祭りに参加したいという入居者の希望を受け、ユニットの他の入居者も同行し見物するなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、おやつ、レクリエーションなどの利用者様同士が関わり合える場を設け、時には職員が間に入り良好な関係作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談にのれる体制を整えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えや、言動、行動、生活歴等により、希望、意向の把握に努めている。本人から把握する事が困難な時には家族に確認、検討してる	理念の「気づくやさしさ」を基に、利用者とのコミュニケーションを図ることや利用者のサインを見逃さないことを基本に取り組んでいる。入居者が居間で休んでいるときに話を聴く「15分間会話」を5ユニットで実行したり、意思表示の困難な人には「目がものを言う」という喩のように、顔の表情から推測したりして、入居者の思いや意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い把握に努めている。又、本人や家族との会話の中で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ユニット内会議(ケアプラン、チームケア)を開催し、意見やアイデアを反映し状態に即した介護計画を作成している	介護計画は、入居当初は10日から1ヶ月の観察後に作成し、その後短期3ヶ月・長期6ヶ月毎に見直しを行っている。毎月ケアプラン会議を開き、モニタリングを行い、退院で身体状況に変化があるときは、その都度見直しを行っている。日々の経過記録は介護計画を基に行っているが、今後更に意識づけを図った記録のやり方を検討したい方向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、ケアチェック表、バイタルグラフなどを個別に記入し情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、外出、外泊、買い物、床屋など、柔軟な支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体験学習の中学生との交流や慰問等により、利用者様が楽しく生活出来る様、支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、御家族の希望するかかりつけ医への受診を支援して	利用者の希望するかかりつけ医に受診しており、初回は職員も同席し、自動車に乗降できる人は家族が対応している。診療結果は、処方箋等を基に家族から結果を聞き取り、ケース記録に記載し、家族にコピーを渡し、診療経過を知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化、バイタル測定を記録に残すと共に適切な受診が出来る様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を取り情報の交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルケアについては、ご本人様、御家族様の希望を伺い出来る限り希望に添える様、支援している	重度化した場合には、家族と相談しながら往診により医師の判断を得ながら、ぎりぎりまで対応する方向である。現在、末期がんの人は家族の意向を基に、協力医の往診を受け看取りを行うこととしている。重度化や終末期に向けた方針の作成については、各ユニット毎に話し合いをしているが、作成には至っていない。	重度化や終末期に向けた方針を作成し、職員や家族が共有し、支援されるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームや消防署にて救命救急の講習を受けて、急変や事故発生に備えてマニュアルが各ユニットに置かれている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ったり、災害時のマニュアル連絡網がある	災害時の連絡網を整備し、夜勤専従職員も参加し、夜間を想定して年4回の避難訓練を行い、うち1回は消防署が立会い、指導を受けている。設立当初は、区長が参加していたが、最近では参加していない。非常食として3日分の食材が業務用冷蔵庫に保管されているほか、各ユニットは、非常用持ち出し袋を用意している。	火災想定場所を適宜変更するなど、様々なシミュレーションで実践的な訓練を行うと共に、近隣の人達の協力を得た避難訓練の実施など地域の協力体制の構築に向けた取組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声掛けを心掛けている。分かりやすい言葉かけにも心掛けている	入居者を尊重し、感情に配慮して、丁寧でありやさしい言葉づかいで対応している。「ちょっと待って」は言わないように、相槌をうつようにしており、入居者のペースを大切に支援するよう心がけている。呼称は、姓に「さん」付けを基本とし、同姓の人には本人の了解を得、名前を呼んでいる。各居室の入口に暖簾を掛けているが、入室時には声かけをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手を尊重した声掛け、保守義務等の徹底に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様とのコミュニケーションを取り、希望を優先し、一人ひとりにあったペースに沿って生活出来る様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師さんが来られ、髪をカットされたり、又、利用者様が希望する理容室へ行かれたりされている。衣類等も清潔に保てる様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の一部をお手伝いして頂いたり、月に一度ユニット順番で食べたい物の希望を聞き全ユニットが同じ物を食べ楽しまれている	献立は系列施設の管理栄養士が1ヶ月毎に作成し、食材担当者が3日分を購入して、各ユニットで調理している。月に一度入居者の希望を取り入れたお好み食を提供している。誕生日の手づくりケーキや敬老会・正月の行事食は合同で行い、ビールや日本酒を提供し楽しんでいる。入居者は、下膳や皮むき等無理のない程度に職員と一緒にやっている。職員は1名と一緒に食べて、検食ノートに記録している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べられる量や好きな物、嫌いな物を把握し栄養を考え支援している。食事量、水分量を記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の航空ケアの声掛け介助等、一人ひとりに合った支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり、トイレの案内、介助を行い利用者様のレベルに応じて支援している	個人ごとの経過記録に排泄状況を記録し、本人のパターンを把握すると共に、その方のしぐさを見逃さないようにし、トイレ誘導している。また、それぞれの状態にあわせてリハビリパンツやパットを検討したりするなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食事、水分、散歩など一人ひとりに対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日以外も訴えがある場合には、入浴支援をしている	入浴は、週2回を原則としているが、希望者には毎日入浴できる体制にある。毎週日曜日には、5人程が一緒に入れる大浴槽があり、仲の良い人同士が入浴を楽しんでいる。介助が業務的にならないように心がけ、ゆっくりと入浴できるよう、昔話をするなどして支援している。また、入浴を嫌がり「もう入った」と言う方には、その言葉を否定せずに浴室に誘い声かけをしながら入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息出来る気配り、病気等に応じて休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり内服薬の説明書を個人ファイルに保管し、情報の共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活にする為、良くアセスメントし利用者様の力を活かしたり趣味をアクティビティの活動に取り入れ、楽しみや気分転換の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿って外出の支援を行っている。外散歩、イベント等行っている。家族様と協力し、外食、理容室など外出できるように支援している	天気の良い日は、ホームの周りを散歩している。月・水・金の食材の買出しには、入居者も同行し、入居者が希望する日用品の買物にも出かけている。月4回のイベントにドライブなどを取り入れたり、花見やミニ運動会を行ったりしている。また、家族の協力を得て、外食や理・美容院、温泉利用等外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1ヶ月の小遣いを決めて職員と一緒に買い物に出かけ、支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者のニーズに答えて行っている。毎月の近況を、おたよりにてお知らせをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はまめに行い、居室や居間に観葉植物を置き、利用者様に水やりをして頂いております	清掃は、チェック表を用いて清潔を心がけている。玄関には菊、居間には観葉植物などを置いている。廊下の壁面には外出行事等の写真や入居者の絵画等の作品が飾られ、入居者がこれらを話題に会話が弾んでいる。相談室には、自販機が置かれ、好きな飲み物を買って休憩するなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席を一人ひとりが余り気を使わぬ様、居場所に心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	書画をする利用者様には常に半紙や筆ペンを用意しておきます。テレビは目が疲れない位置に	居室は、その人にあわせてベットやふとんにしている。各居室には、備品の収納棚の他に、テレビ・使い慣れたタンス等が自由に持ち込まれ配置され、壁には、孫の成人式の写真などが飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットやタンスの位置に気をくばり一人ひとりが使いやすい様にしている。又、常に足元が危なくないか気を配っている		